

新宿中村屋をつくり、名物女将として活躍した実業家。

相馬 黒光 (そうま こっこう)

宮城県仙台市生まれ (安曇野市穂高白金)

〈相馬黒光が活躍した時代〉 1875 〈明治 8〉 年～1955 〈昭和 30〉 年 享年 80 歳

明治						大正			昭和			
8	30	34	37	40	42	4	5	8	2	30		
仙台に誕生	明治女学校卒業	相馬愛蔵と結婚	療養のため上京	東京本郷に中村屋開業	「クリームパン」を発明	「インドの革命家ボースを	ロシアの詩人エロシエン	「かりんとう」を発売	「カリストライン」を	「月餅」「中華まん」を	黒光、逝去	



私は苦勞の末に、新宿中村屋を開業しました。クリームパンやかりんとう、純インド式カレーなど、皆様に親しみやすい商品を開発し、販売したことで人気となりました。そんな私を支えてくれたのが、夫の相馬愛蔵です。新宿中村屋は、夫とともに努力を重ねてきた成果の表れです。

相馬黒光の業績はこれだ！

- ①新宿中村屋を開業。クリームパン、かりんとう、カレーライスなど、数々の人気商品を生み出す。
- ②中村屋サロンを形成。安曇野にゆかりのある荻原碌山、インド独立運動の志士ラス・ビハリ・ボース、ロシアの詩人エロシエンコらを保護。
- ③夫の相馬愛蔵に支えられ、女性の社会進出に影響を与えた。

相馬黒光がつくった、みんなが大好きな食べ物！

仙台に生まれた黒光 (本名は良、黒光はペンネーム) は、20歳で相馬愛蔵と結婚。結婚後は愛蔵の郷里である安曇野に住むが、4年後に上京し、東京の本郷に中村屋を開業。その後、彼女のアイデアによって多くの商品が生み出された。今ではみんなが大好き、クリームパンや中華まん、月餅やかりんとうなどである。特に、材料を厳選し、多くのスパイスを使った本格カレーは、大人気となった。当時の洋食屋のカレーが10銭ほどだったのに対し、中村屋のカレーは80銭という高額なものだった。しかし、それが飛ぶように売れ、中村屋の看板メニューとなった。彼女が作り上げたカレーは今も、中村屋の名物料理であり、安曇野市の学校給食でも子どもから慕われている。



新宿中村屋本店のレストランで食べられる純印度式カレー。



安曇野市の学校給食で人気の、「中村屋カレー」の原点は、相馬黒光にある！

世界を動かした！？相馬黒光が支えたすごい人！

ラス・ビハリ・ボース

インドの生まれ。イギリスの植民地として圧政に苦しんでいた祖国を救おうと、独立運動に参加。イギリス政府から追われる身となり、日本に亡命してくるが、日本政府からも追われる。そんな中、黒光に命がけで匿われ、その後のインド独立運動に力を尽くすことができた。ボースの死から2年後、インドはイギリスからの独立を勝ち取った。

ワシリー・エロシエンコ

ウクライナ生まれ。4歳の時に失明した彼は、日本へ渡った時に中村屋を訪れ、黒光と出会う。彼女に衣食住の面倒まで見てもらい、共産主義者の疑いで警官に連行された時には、黒光が彼を救おうと力を尽くした。黒光の支えがあり、エロシエンコは後に、中国や日本、ロシアで盲人のための文化活動に大きな功績を残した。

相馬黒光といえば、中村屋サロンをつくり、多くの人を支えたことでも有名。近代彫刻家で安曇野にゆかりのある荻原守衛や、インド独立の志士ボース、ロシアの亡命詩人エロシエンコなど、この時代に活躍した人々を支援した。黒光は日本にとどまらず国際的にも大きな足跡を残したのだ。そして、黒光がこうした功績を残すことができたのは、夫である相馬愛蔵の支えがあったからでもある。夫婦で協力し、試行錯誤しながら行ってきたことが、新宿中村屋が発展できた原点である。

【参考文献】

- 「新宿中村屋 相馬黒光」 宇佐美承 1997 集英社
- 「黙移」相馬黒光 1997 日本図書センター
- 「信州の大紀行シリーズ1 安曇野大紀行」 2006 一草舎出版
- HP 新宿中村屋 <https://www.nakamura.co.jp/>